

P2-35.**4.5Fr シェファードフック型ガイディングシースカテーテルを用いた double microcatheter system の単ルートアクセス**

(八王子 放射線科)

○高良 祐葵

(放射線科)

佐口 徹、大高 純、池永 翔一

守矢 知永、代田 夏彦、剣木 憲文

勇内山 大介、齋藤 和博、徳植 公一

【目的】 腹部内蔵血管における血管内治療に際し、複数のマイクロカテーテル・マイクロバルーンを使用する場面がしばしば存在する。ただし一般的には、両側鼠径部からの2ルートでのアプローチとなり、患者への負担と手技の煩雑さが問題となっていた。そこで我々は腹部領域における既存のシステムで最も細径である、内腔 0.075 inch を有する 4.5Fr のシェファードフック型のガイディングシースシステム (Parent Plus45) を考案し、単ルートでのマルチデバイスでの通過性試験を行ったので報告する。

【方法】 1. Parent Plus45 及びハイフロータイプを含めたマイクロカテーテル/マイクロバルーン 8 種の内外径を測定した。2. Yコネクターを接続した Parent Plus45 に、湿潤させたマイクロカテーテル/マイクロバルーンにマイクロガイドワイヤーを先行させた状態で、各組合せの2本のカテーテルをそれぞれ挿入し、通過性を確認した。その後、マイクロカテーテル/マイクロバルーンのいずれか1本を抜去し、抜去時の抵抗値をデジタルフォースゲージで測定した。

【結果】 Parent plus 45 (実測内径: 1.89 mm) 内の通過性は、中に通すマイクロカテーテルの合計外径が 1.80 mm までであれば、0.30N と低い抵抗値で通過することがわかった。ハイフロータイプのカテーテル+通常マイクロカテーテル/マイクロバルーンや、マイクロバルーン+マイクロバルーンの組合せなども、合計外径が 1.80 mm までであれば通過可能であった。

【結論】 Parent plus 45 内には多彩な組み合わせのマイクロデバイスが通過可能であり、同システムを用いることで、腹部領域における単ルートでのマルチデバイスでの血管内治療が行える可能性が示唆された。

P2-36.**効果的な e コンテンツの教材製作の取り組み**

(医学部医学科 4 年)

○亀山嘉志人、齊藤 良都、佐藤 壮男

橋本 泰斉

(医学教育学)

R. ブルーヘルマンズ、油川ひとみ、泉 美貴

【背景・目的】 eラーニング教材には必ずしも効果的とは言えない教材が含まれていると感じていた。グループ別自主研究では学習効果の高い教材の条件を検討し、効果的な e コンテンツを目指して製作した。

【方法】 教材製作にあたり、e コンテンツだからこそこできることは何か、学生目線でどうしたら理解しやすいかを意識して、e コンテンツが高い教育効果を示すための条件を議論した。制作指針の基となるものは、A 班では 6 つ、B 班では 8 つ挙げられた。指針のうち「目的と対象者が明確であること」「信頼のおける情報」「使いやすいユーザインタフェース」「理解しやすい内容」「利用者が理解度を把握できる構成」の 5 項目が同一のものとなり、効果的なコンテンツを制作するために必須となる条件と考え、その実現を目指して製作した。A 班は脳神経の解剖・生理について、B 班はパソコン操作についての教材を製作した。議論で得られた条件を念頭に置いて、重要な部分を赤字にする、イラストを用いて理解を補助する、確認テストを入れる、動画に字幕を入れる、など工夫をこらし、両チームが学習効果の高い教材を目指した。画像編集ソフトや動画編集ソフトなどを使い、画像や動画の編集にも力を入れた。完成した教材は専門の先生方に品質検査をしていただいた。その後、使用者にアンケートを行い、理解度や満足度などを調査した。

【結果】 回答者数は A 班は 28 人、B 班は 30 人となった。両班とも使い勝手・理解度の項目は、利用者の 80% 以上から肯定的な意見をj得る事ができた。また動作に関する項目については、両班とも利用者の 90% が正しい表示で利用できている、と回答した。パソコンから使用した場合は、両班とも 100% の利用者が正しい表示で利用できていたがスマートフォンでは動作不良も見られた。

【結語】 両チームともおおむね効果的な e コンテン